

世界の音楽と世界遺産、ファド (Fado)

について



世界の音楽と世界遺産、ファド (Fado)

ショール、ポルトガルギター、歌声、そして心からの感情。このシンプルなイメージが、ポルトガルのシンボルと認められている、純粋にポルトガルたる世界の音楽、ファドを表現しています。

その中心にあるのは感傷、失恋、死者への思慕、毎日の生活と勝利の喜びです。結局、人生の浮き沈みが終わりのない感動的なテーマを与えるのです。

人々は「ファドはファドだ」といいます。つまり、ポルトガル人の魂の中に根付いているもので、区別は付けられないのです。そうとはいえ、プロとアマチュアは違うと言っている人もあります。プロはその歌声で日々の糧を得ています。アマチュアはヴァディオ (vadio) (放浪者) としても知られるファドを歌います。これは異なる性質のものですが、ここでも思慕が主なライトモチーフとなっています。リスボンの労働者階級の地区にカムバックしたファド・ヴァディオの歌手は、決して招待されません。彼等は勝手に押しかけますが、レパートリーを持ちません。コインブラのファドには特別な特徴があり、学生たちが歌います。

2011年、ユネスコは、自らとその国を象徴する都市リスボンの歌として、ファドを世界遺産に認定しました。

詳細について知るには、リスボンの歴史地区の1つアルファマ (Alfama) にある**ファド博物館** (Museu do Fado) にお出かけください。数百点もの寄贈品から集められた膨大なコレクションを所蔵しており、19世紀から現代までのファドの歴史を知ることができます。

マドラゴア (Madragoa) に近いリスボンにも、アマリアが暮らしていた家があり、現在では博物館となっています。アマリアは素晴らしいヨーロッパのホールを越えてファドを広めた、ファドの最高のカリスマ歌手でした。ステージの上で目を奪うような存在感を持ち、歌うことに天賦の才を持つ歌手で、黒いドレスとショールというクラシックなイメージの彼女の姿が思い浮かびます。

ファドの歌声

ファドの歌手を選ぶのはいつも難しい仕事です。というのも、ファドはさまざまな方法で歌うことができるからです。

伝統的な歌い方は、アマリア・ロドリゲス (Amália Rodrigues)、エルミニア・シルヴァ (Hermínia Silva)、アルフレード・マルスナイロ (Alfredo Marceneiro)、マリア・ダ・フェ (Maria da Fé)、アルジェンティーナ・サントス (Argentina Santos)

などの歌手たちに受け継がれています。ファドに対する情熱で有名な歌手たちばかりです。また、カルロス・ド・カルモ (Carlos do Carmo) は、生まれ故郷のリスボンを歌うときの、心の底からの感情を込めた歌い方が印象的な男性歌手です。

ファド歌手の新しい世代は、新しいアプローチを開拓しながらも、これらの伝統を守っています。そのリストは次のように長くなります。マリーザ (Mariza)、アナ・モウラ (Ana Moura)、カマナー (Camané)、アントニオ・ザンブージョ (António Zambujo)、クーカ・ロゼータ (Cuca Roseta)、ミージア (Mísia)、カルミーニョ (Carminho)、マファルダ・アルナウト (Mafalda Arnauth)、カティア・グレイロ (Katia Guerreiro)、マリア・アナ・ボボン (Mariana Bobone)、マルコ・ロドリゲス (Marco Rodrigues)、ラケル・タヴァレス (Raquel Tavares)、エルデル・モウティーニョ (Helder Moutinho)、ロドリゴ・コスタ・フェリクス

(Rodrigo Costa Felix)、リカルド・リベイロ (Ricardo Ribeiro) などですが、ほかにも大勢の歌手がいます。彼等はファドを、そのフィーリングを損なわずに今日的なものに仕上げました。しかし、いざ選ぶというときには、偏見を持たずに、驚きに身を任せるのが一番でしょう。

グラントナイト・オブ・ファド (Grande Noite do Fado)

は毎年リスボンとポルトで開かれます。それは、新しい才能が大衆の前に披露される特別なイベントです。

コインブラのファド

コインブラのファド (Fado de Coimbra)

ドは、伝統的に、黒の学生用ガウンと厚いマントを身にまとった男性と大学生によって歌われます。

元々、リスボンのファドに非常によく似た楽器を使っていました。しかし、さまざまな場所で演奏されるにつれ、その歌詞とさまざまな声の効果により、学問的な傾向を帯びるようになりました。ファドは若い時の最高の時間である学生生活の思い出、眠れぬ夜、報われない恋を表現し、セレナーデを歌うための完璧な手段となりました。

5月に行われる学生生活に別れを告げるための祭り、ケイマ・ダス・フィタス (Queima das Fitas) は、ファドを聴く絶好の機会です。また、古い大聖堂の外で行われるセレナーデの夜は (Noite da Serenata)、間違いなく独特な感情が揺さぶられるひと時です。

学生の中には、学問の世界の囲いから抜け出し、ファドを選ぶものもいました。アドリアーノ・コレイア・デ・オリヴェイラ (Adriano Correia de Oliveira) とジョゼ・アフォンソ (José Afonso) は歌手として、アルトゥール・パレーデス (Artur Paredes) とカルロス・パレーデス (Carlos Paredes) はギタリストとして名を馳せました。

ファドを聴きに行く

ギターのチューニングが終わる。照明が落とされる。「静かに、今まさにファドを歌うところだ！」夜はこうして始まります。

幾つかの旅行会社ではファドをテーマに据えたサービス、プログラムや体験などを提供していますが、ファドを聞くならファドハウスが一番です。かなり特殊な雰囲気やくつろげる空間で、言語が分からなくとも理解できる旋律を楽しみながらキャンドルライトのもとで食事をするというのは、ユニークかつ忘れがたい経験となります。

この街はファドの選択肢の数が最大級であり、特に労働者階級の古いエリアは選択肢が多くなっています。ファドが人類の無形文化遺産の登録候補になった際には、リスボン [Lisboa] が推進活動を展開しました。現在では、ファドはポルトガル全国で聞くことができるようになり、特にコインブラ [Coimbra] やポルト [Porto] で盛んです。

ファドが聞ける場所を探すには、メニューの「レストランとカフェ」で fado と入力して検索してください。、または「観光ツアー・その他のサービス」で、絞り込み検索をしてください。